

世はまさに「読み・書き・そろばん・コンピュータ」の時代となり、教育の情報化については文部科学省をはじめ政府が強力に推進しています。しかし、最近マスコミをにぎわしている「Winny」による内部機密情報や個人情報漏洩騒ぎ、国立大での違法ソフトコピー事件による逮捕者続出、ネットショッピングやオークションにおける詐欺犯罪の多発、巧妙化するコンピュータ・ウィルス等、情報セキュリティの重要性が一層認識されるようになっていきます。

平成 17 年度から新教育用電子計算機システムを稼働して、ほぼ 1 年が経とうとしています。本システムの特徴は、情報処理センター第 1 演習室と CAD 室が同じ教育専用サーバで一元化したことです。今回はハードウェアシステムを中心に特集を組みましたので、本号では教育に視点を据えたソフトウェアのミニ特集といたしました。

文部科学省直轄の独立行政法人メディア教育開発センター(NIME)には「高等教育 IT 支援事業」として、「高専 IT 教育コンソーシアム」が立ち上がり、高専間教育素材共有システムも運用が開始されました。7 高専から英語、数学、情報処理、応力計算等 12 のリンクが張られております。平成 17 年度は高知高専を中心とした高専群が、現代 G P「e-learning」に関して採択をうけ活発な活動を展開しています。こうした背景下にあって、本校でも上記コンソーシアムに加盟してできる範囲の活動を開始しており、「e-learning」でのコンテンツ相互流通・共有を図ることを視野に、e-learning システム「Web-Class」を導入しました。

本システムは日常的に作成している学習シート等を、すぐコンテンツ化できる点がメリットとなっており、学生の学習記録管理も比較的容易である等の特徴があり、多くの高専に導入され、高専間でのデファクトスタンダードとなりつつあります。電気電子工学科では品川先生と吉田先生が、卒業研究で取り組み電気基礎科目に関するコンテンツ開発を推進しています。興味の有る方はセンター詳しい CD-R の説明マニュアルを準備していますのでお問い合わせください。

一方、CAD 室には、最近のものづくり現場では当然のように使用され始めた、3 D-CAD「PTC Pro ENGINEER」が導入され機械工学科での教育は勿論、一部の地域人材活用にも利用され始めました。本ソフトウェアの特徴は、「やさしい操作」、「強力な機能」、「web でつながる」等から他高専でも多く使用されています。

情報処理教育は座学と異なり、講義の後に必ず演習をして理解を助けることが一般的ですが、ティーチングアシスタントがいないために、教員一人で 40 名もの学生に対応しなければならず相当の負担になっていました。そこで、教員の負担軽減と学生への講義内容の理解を進める目的で、授業支援ソフト「IDK ED Class」を導入しました。教員の模範画面一斉提示、学生画面の呼び出し表示、ファイル転送、学生画面巡回、動画ファイル再生等ができるようにシステムを構成しており、使用されている教員からは好評のようです。

本ミニ特集を参考にされ、今後コンピュータを用いた教育を推進されますように期待したいと思います。情報処理センターでもできる限りの支援をする覚悟です。